

神奈川県内スーパーマーケット業績動向調査（2023 年度）

オーケーが売上高トップ 「増益」「減益」の二極化へ明暗分かれる

～上位 50 社の売上合計 2 兆 2116 億円、前年度比 9.8%増～

はじめに

2023 年度のスーパーマーケット業界を取り巻く環境は、新型コロナの 5 類移行による人流回復や販売価格の上昇などが追い風となったが、一方で、原材料価格や人件費、光熱費の高騰を十分に価格転嫁できず、減益を余儀なくされたところもみられた。今後は「2024 年問題」による輸送費の増加、人手不足による人件費の増加など、コスト面の問題によって引き続き二極化が進む可能性が高い。

帝国データバンク横浜支店は、企業概要データベース「COSMOS2」（147 万社収録）や会社公表業績をもとに、2023 年度決算の年売上高が判明した、神奈川県に本店があり実店舗を持つスーパーマーケット・各種食品小売業の上位 50 社を抽出。売上高や利益の推移などを分析した。

調査結果（要旨）

- 2023 年度の県内スーパーの売上高ランキングを見ると、トップはオーケー（株）（横浜市西区）。首都圏を中心として継続的な新規出店などを背景に売上高は約 6238 億 8900 万円（前年度比 12.7%増）を計上した。2 位は（株）ロピア（川崎市幸区）で、売上高は約 4126 億円（グループ合算、同 21.3%増）。3 位はイオングループのまいばすけっと（株）（横浜市神奈川区）で、売上高は約 2598 億 7500 万円（同 15.8%増）となった。
- 神奈川県内に本店があるスーパーマーケットのうち、売上高上位 50 社について 2022 年度と 2023 年度決算の年売上高合計をみると、2023 年度は 2 兆 2116 億 2500 万円。前年度（2022 年度）と比べて 1976 億 5100 万円増加（9.8%増）した。
- 上位 50 社について、前年度の売上高と比較すると、「増収」企業（15 社）は「減収」企業（7 社）を 3 年ぶりに上回った。利益（当期純利益）においても、「増益」企業（16 社）が「減益」企業（15 社）を 3 年ぶりに上回った。
- 値上げなどによって前年度並みの売上高を維持しているものの、コスト増を背景として「（売り上げ）横ばい減益」となった企業が約 3 割を占めた。

1. 売上高ランキング

県内スーパーの 2023 年度売上高ランキングを見ると、トップはオーケー(株) (横浜市西区)。売上高は約 6238 億 8900 万円となり、2 位と 2000 億円以上の大きな差をつけている。首都圏を中心に店舗を展開しており、経営方針は「高品質・Everyday Low Price」。競合店の本体価格に合わせて値下げする『競合店対抗値下』制度で地域最安値を目指すほか、販売商品に関する正確な情報を届けるために『オネスト(正直)カード』を掲示している。また、長期的なコスト競争力を高めるために出店に適した土地を積極的に取得しており、2023 年度は 9 店舗増の 151 店舗となった。

2 位の(株)ロピア(川崎市幸区)は、「同じ商品ならより安く」「同じ価格ならより良いものを」をモットーに、神奈川県を中心に店舗を展開。前身が精肉店であることから、肉類を中心とした生鮮品の品質に定評がある。2023 年度は九州地区に初出店するなど、中部地区に初出店した 2022 年度に続き出店範囲を拡大しており、売上高は前年度比 21.3%増の約 4126 億円（グループ合算）となった。

3 位はイオングループのまいばすけっと(株) (横浜市神奈川区)。コンビニサイズの小型スーパーで、店舗数は 1100 を超えている。一定エリアに集中して出店するドミナント戦略により売り上げを伸ばしており、2023 年度の売上高は 2598 億 7500 万円で前年度比 15.8%増と高い伸び率を記録した。

上位 10 社のうち、8 社で前年度比増収となり、前年度（7 社）から増加した。上位 3 社の伸び率は 10%を超えたほか、大型スーパー「エイヴィ」を展開する 6 位の(株)エイヴィ（横須賀市）や、「食品館あおば」を展開する 10 位の(株)ビック・ライズ（横浜市青葉区）などが売り上げを伸ばした。

7 位の相鉄ローゼン(株) (横浜市西区) は、横浜市を中心に神奈川県と東京都で「そうてつローゼン」を展開。一部店舗の閉鎖などの影響で売上高は前年度比 0.7%減の 669 億 8800 万円にとどまった。

■2023年度売上高ランキング(上位10社)

順位	商号	所在地	決算月	売上高 (百万円)	前年度比 売上高 伸び率	前年度 順位
1	オーケー(株)	横浜市西区	2024年3月	623,889	12.7%	1
2	(株)ロピア	川崎市幸区	2024年2月	(※)412,600	21.3%	2
3	まいばすけっと(株)	横浜市神奈川区	2024年2月	259,875	15.8%	3
4	生活協同組合ユーコープ	横浜市中区	2024年3月	191,913	1.1%	4
5	(株)成城石井	横浜市西区	2024年2月	112,544	2.2%	5
6	(株)エイヴィ	横須賀市	2024年3月	73,550	8.2%	6
7	相鉄ローゼン(株)	横浜市西区	2024年3月	66,988	▲0.7%	7
8	富士シティオ(株)	横浜市中区	2024年2月	63,489	▲0.7%	8
9	小田急商事(株)	川崎市麻生区	2024年2月	62,440	5.2%	9
10	(株)ビック・ライズ	横浜市青葉区	2023年10月	61,732	8.0%	10

※(株)ロピアの売上高はグループ合算

2. 売上高推移

神奈川県内に本店があるスーパーマーケットの売上高上位 50 社について、2022 年度と 2023 年度の売上高合計を見ると、2023 年度は 2 兆 2116 億 2500 万円で前年度から 1976 億 5100 万円増加 (9.8%増) した。増加分のうち 1780 億円以上を売上高上位 3 社が占めており、上位 3 社を除いた 47 社で比較すると、2.1%の増加にとどまっている。

50 社の増減収をみると、2023 年度の「増収」企業は 15 社で前年度比 4 社減少、「横ばい」は 28 社 (前年度比 22 社増加)、「減収」は 7 社 (前年度比 18 社減少) となり、3 年ぶりに「増収」が「減収」を上回った。年商規模別では、2023 年度の売上高が 100 億円以上の 18 社のうち 8 社が「増収」、10 社が「横ばい」で、減収の企業はなかった。100 億円未満の 32 社では「増収」が 7 社、「横ばい」が 18 社、「減収」が 7 社となった。

2023 年度は節約志向があったものの、販売価格の上昇によって売り上げを維持した企業が多く、横ばいが半数を超える結果となった。

■売上高推移(上位50社)

年度	売上高合計 (百万円)	前年度比 伸び率
2022	2,013,974	— %
2023	2,211,625	9.8%

■増減収社数(前年度比)

年度	増減		
	増収	横ばい	減収
2021	12	20	18
2022	19	6	25
2023	15	28	7

※「横ばい」は、増減率が前年度比±3%未満
 ※変則決算は1年換算で比較

規模別

年度	100億円以上			100億円未満		
	増収	横ばい	減収	増収	横ばい	減収
2021	7	4	7	5	16	11
2022	10	0	8	9	6	17
2023	8	10	0	7	18	7

3. 利益推移

上位 50 社のうち、前年度と利益 (当期純利益) の比較が可能な 34 社の増減益をみると、2023 年度の「増益」企業は 16 社で前年度比 9 社増、「横ばい」は 3 社 (3 社増)、「減益」は 15 社 (13 社減) となり、「増益」と「減益」に二分された。年商規模別では、売上高 100 億円以上の 18 社のうち「増益」は 10 社、「横ばい」は 3 社、「減益」は 5 社となった。100 億円未満の 16 社では「増益」は 6 社、「減益」は 10 社となった。

増収効果や前年度よりも価格転嫁が広がった一方で、物価高や人件費・光熱費などのコストアップに対する価格転嫁が十分に出来ておらず、減益となった企業もみられる。

■増減益社数(前年度比)

年度	増減		
	増益	横ばい	減益
2021	16	0	17
2022	7	0	28
2023	16	3	15

規模別

年度	100億円以上			100億円未満		
	増益	横ばい	減益	増益	横ばい	減益
2021	8	0	9	8	0	8
2022	4	0	12	3	0	16
2023	10	3	5	6	0	10

※上位50社のうち、前年度からの増減益判明分を集計 (2021年度:33社、2022年度:35社、2023年度:34社)

※「横ばい」は、増減率が前年度比±3%未満

※変則決算は1年換算で比較

4. 業績動向

2023 年度において前年度と利益比較が可能な 34 社のうち、「増収増益」は前年度比 4 社増の 8 社となり、「減収減益」は 13 社減の 3 社となった。「増収減益」は 2 社で昨年度から 10 社減となった。増収増益の企業が増えた一方で、昨年度 0 社であった「横ばい減益」は 10 社となっており、値上げ等によって売上自体は維持したものの、コストアップに対応できていない状況が浮き彫りとなった。

■業績動向(前年度比)

年度	構成比(社数)									計
	増収増益	増収横ばい	増収減益	減収増益	減収横ばい	減収減益	横ばい増益	横ばい横ばい	横ばい減益	
2021	18.2%(6)	0.0%(0)	9.1%(3)	15.2%(5)	0.0%(0)	27.3%(9)	15.2%(5)	0.0%(0)	15.2%(5)	100%(33)
2022	11.4%(4)	0.0%(0)	34.3%(12)	8.6%(3)	0.0%(0)	45.7%(16)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	100%(35)
2023	23.5%(8)	2.9%(1)	5.9%(2)	2.9%(1)	0.0%(0)	8.8%(3)	20.6%(7)	5.9%(2)	29.4%(10)	100%(34)

まとめ

売上高トップのオーケー(株)は 2024 年 11 月 26 日に関西へ初出店を決定しており、大きな話題を集めている。また、2 位の(株)ロピアは 2024 年度も中部地区や九州地区、台湾にも出店し、前年度に続き店舗網の拡大を継続するなど、売上高上位のスーパーは 2024 年度に入ってから積極的な営業展開を見せている。

今回調査した 2023 年度の売上高上位 50 社の業績動向では、販売価格の値上げによって減収企業は大きく減ったものの、人件費や光熱費などのコスト増や原材料の高騰を十分に価格転嫁できず「横ばい減益」となった企業が大幅に増加したことが特徴と言える。2024 年度も、「2024 年問題」による輸送費の増加や、人手不足による賃上げの発生など、主にコスト面での問題があげられる。そのため、地方進出や価格勝負などにおける競争力が高い大手スーパーと、収益基盤の脆弱なスーパーの間で差が開き二極化していくものとみられる。

【 内容に関する問い合わせ先 】

(株) 帝国データバンク 横浜支店 情報部

堀 皓貴

TEL 045-641-0380 FAX 045-641-2555

E-mail kouki.hori@mail.tdb.co.jp

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。